

オスマン帝国の衰退

☆オスマン帝国：トルコ人の国王がスナ派の教主を兼ね、多くの異民族を抱える。

1683 第2次ウィーン包囲の失敗⇒カルロヴィッツ条約(1699)：奥にハンガリーを割譲。

• **アフメト3世**：23代(1703-30)。
 1 _____ 時代：宮廷文化の爛熟。^{らんじゆく}

1774 クリム=ハン国を露に奪われる。

• **セリム3世**：28代(89-) 洋式軍隊を創設。
 ⇒親衛隊(イエニチェリ)が政治介入、改革挫折。

• **マフムト2世**：30代(1808-)

1821-29 ギリシア独立戦争：英仏露が介入。

1826 4 _____ 全廃：軍の近代化。

1830- 仏(シャルル10世)のアルジェリア出兵。

1831-40 7 _____ 戦争：エジプトが反乱、シリアを占領。
 ⇒仏がエジプトを、露がオスマンを支援⇒両国の進出を恐れる英が介入。

1838 英=トルコ通商条約：不平等条約。

• 8 _____：31代スルタン。

☆9 _____ (恩恵改革)。

：ギョルハネ勅令(1839)で開始。

軍事・産業・行政・司法の近代化。

1853- クリミア戦争：英・仏の介入で露軍を撃退。

⇒財政破綻。徴税権を担保に列強から借款。

• 10 _____：34代スルタン。

改革派の宰相¹¹ _____ =パシヤ。

1876 11 _____ 憲法を制定。

・英型立憲君主政、アジア初の近代憲法。

1877- 12 _____ 戦争：再び露が侵攻。

⇒スルタンは憲法を停止、専制を復活。

☆13 _____：立憲派の秘密結社。

⇒軍の内部に拡大。専制打倒を目指す。

☆アラビア半島：アラブ人の部族国家が抗争。

1744-1818 2 _____ 王国
 復古主義のイブン=アブドゥル= _____ が
 ネジド地方の豪族³ _____ 家と結ぶ。
 神秘主義、聖者崇拜、オスマン支配を排撃。

☆エジプト：オスマン領。マムルーク諸侯が統治。

1798- 5 _____ のエジプト出兵。

• 6 _____：総督(1805-)

マムルークを全廃、軍の近代化。

1840 ロンドン四国条約：英・仏・露・普。

①総督世襲を認め、シリアを放棄させる。

②エジプトと列強との不平等条約。

• **イスマーイール**：5代総督(1863-)

1869 スエズ運河開通：仏人レセップス。

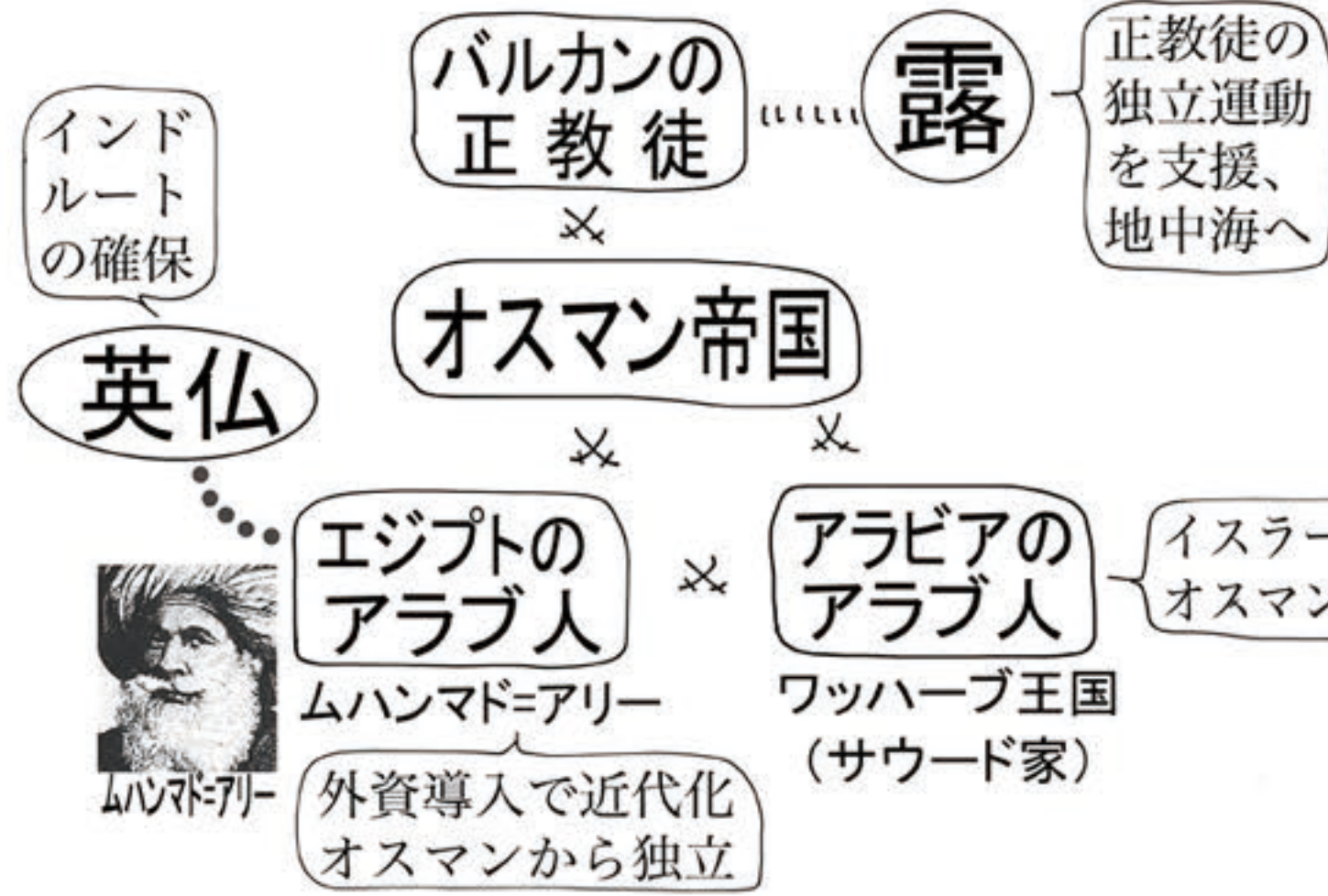
⇒国家財政の破綻。英に株式を売却(75)。

⇒英・仏による財政管理⇒ウラービー革命(81)



- 【解答】 1 チューリップ 2 ワッハーブ 3 サウード
 4 イェニチェリ 5 ナポレオン 6 ムハンマド=アリー
 7 エジプト・トルコ 8 アブデュルメジト1世
 9 タンジマート 10 アブデュルハミト2世
 11 ミドハト 12 露土戦争 13 青年トルコ

オスマン帝国の解体



ワッハーブ派について、以下の語句を用いて90字以内で説明しなさい。
サウード家 シャリーア スーフイズム



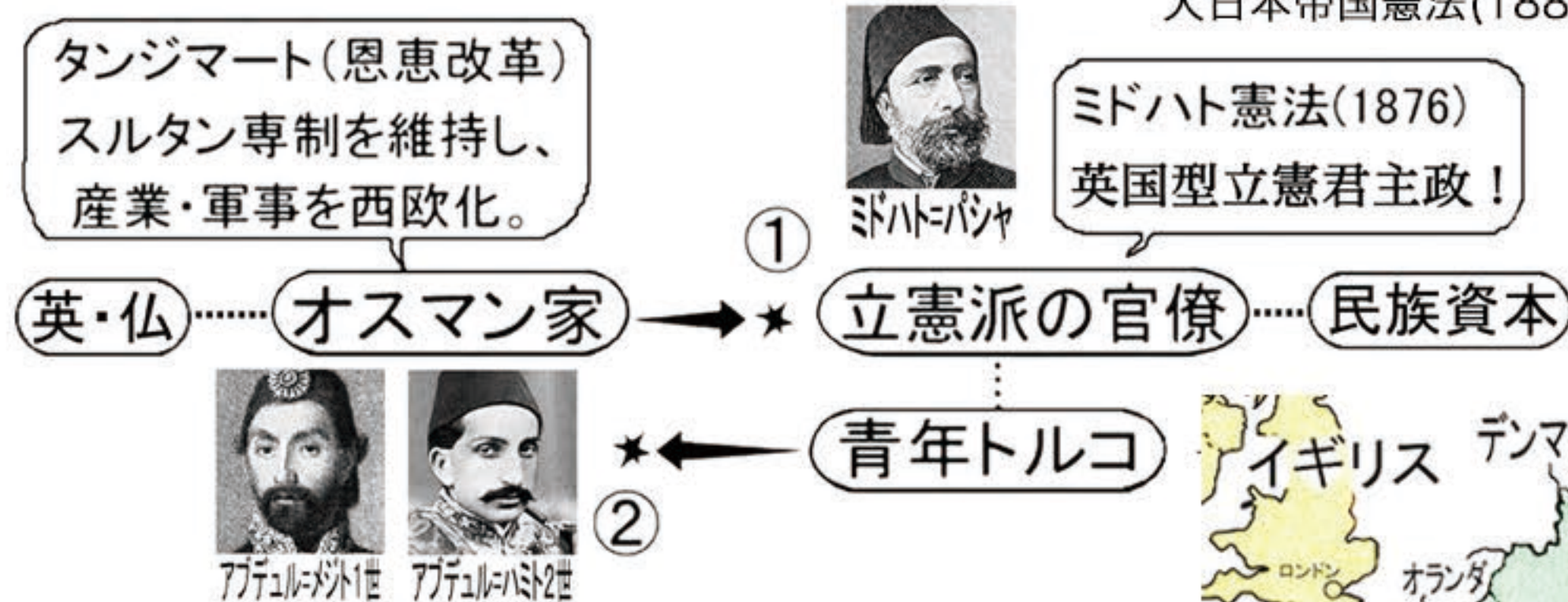
▲ エルトウルル号(1863進水) 日本への親善使節を派遣するが、その帰途、紀伊半島沖で嵐のため沈没(1890)。



▲ ミドハト憲法の発布(1876)

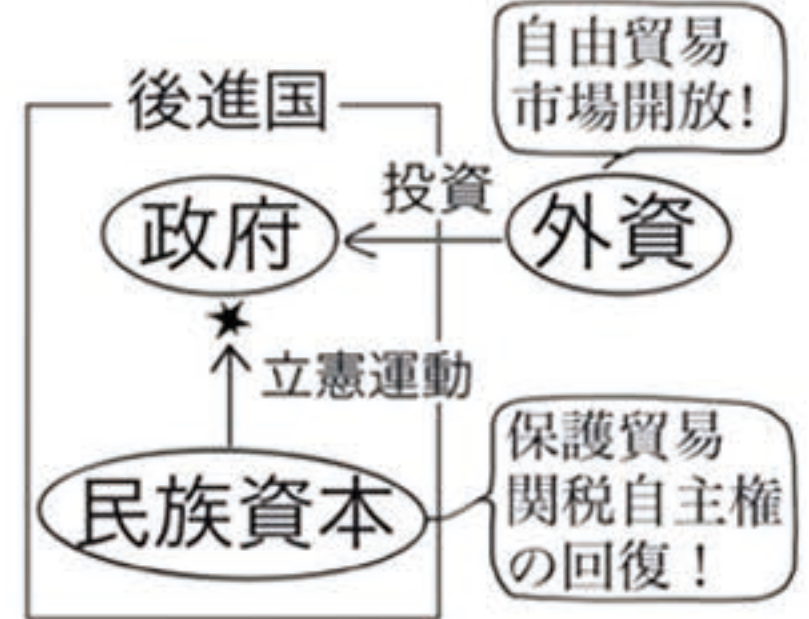
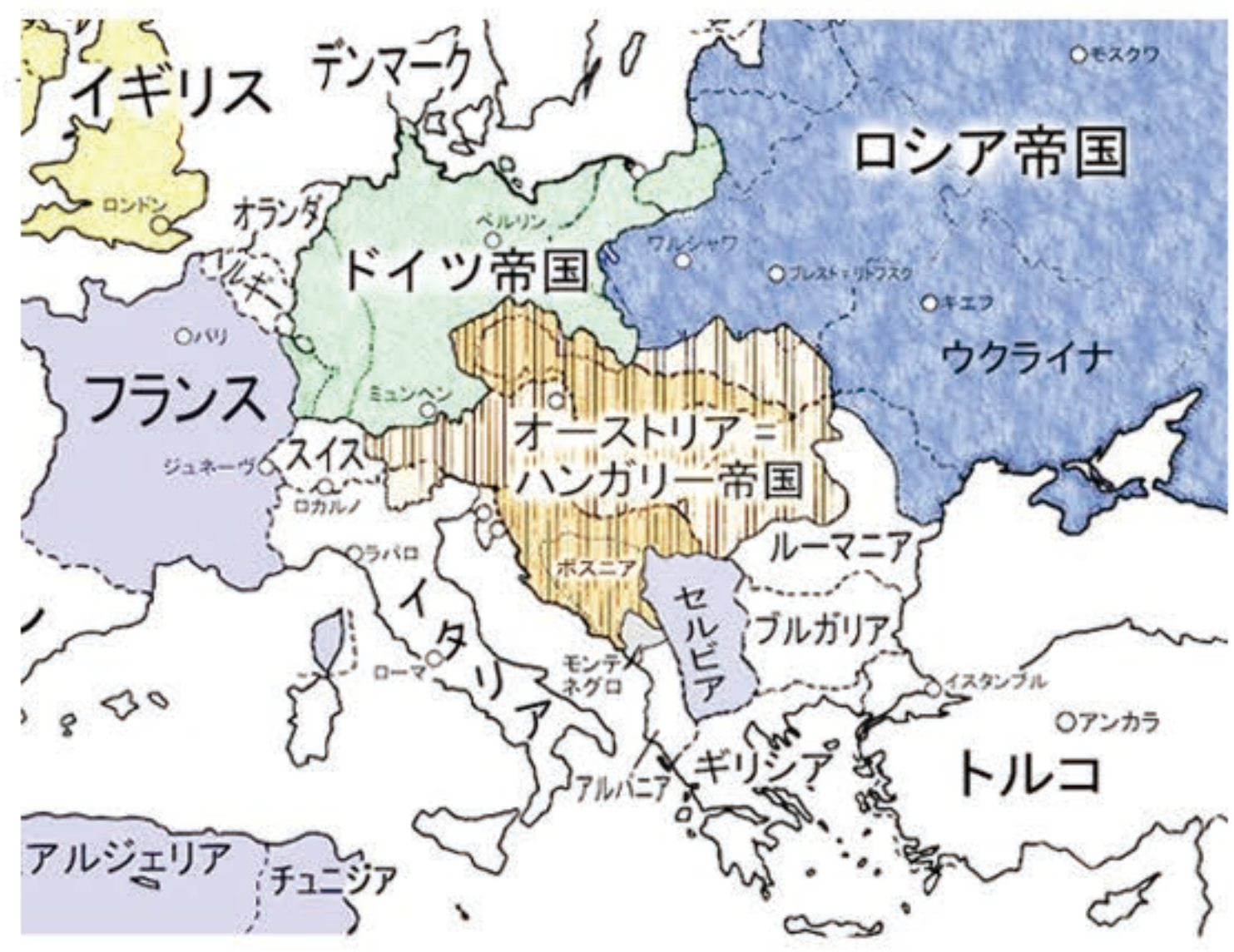
問 第一次世界大戦までのオスマン帝国における近代化について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。
エジプト 露土戦争 日露戦争

オスマン帝国の改革



- ① ミドハト憲法停止(1878) ← 露土戦争
- ② 青年トルコ革命(1908) ← 日露戦争

大日本帝国憲法(1889)



オスマン帝国の崩壊

第一次世界大戦から帝政崩壊までのトルコの歴史について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。
パン=トルコ主義 アナトリア



- ① セーヴル条約(1920)
- ② トルコ革命(1919-23)
- ③ ローザンヌ条約(1923)



スルタン制廃止 アナトリアを奪回 トルコ人だけの民族国家を再建

ムスタファ=ケマル

オスマン帝国崩壊とアラブ独立

• **アブデュル=ハミト2世** : 憲法停止、専制。露土戦争で敗北。 89- 独、バグダード鉄道敷設。^{ふせつ}

1908 ¹ 革命 : 青年将校がサロニカで蜂起 ◀ 1904- 日露戦争。

⇒ アブデュル=ハミト2世退位。 ² 憲法復活、国会開設。

12-13 バルカン戦争で大敗 ⇒ トルコ民族主義の高揚。

☆ ³ 主義 : 露領内のトルコ民族との連帯。 1914- 第一次世界大戦。

14- 大戦で独塊と同盟 ⇒ アラブの反乱。英人ロレンスが指揮。 ◀ 15 ¹⁴ 協定。

⇒ 英・仏がイスタンブルを占領。青年トルコ政権崩壊。

20 サン=レモ会議 : 英・仏がオスマン帝国分割で合意。 ◀ 16 サイクス・ピコ協定。

20 ⁴ 条約 : 連合軍とスルタン政府との講和。

⇒ 英・仏・伊・露による小アジアの分割。不平等条約。

(• 仏の委任統治領 ⇒ シリア・レバノン。

• 英の委任統治領 ⇒ パレスティナ・ヨルダン・イラク。 ◀ 18-¹⁵ 王国

19- ⁵ 軍が小アジアの ⁶ を占領。

20-22 ⁷ がアンカラ政府を樹立、領土奪回。

22 トルコ革命 : ⁸ 制廃止、オスマン帝国滅亡。

23 ⁹ 条約 : 連合軍との新たな講和。

⇒ セーヴル条約を破棄。アナトリア奪回、不平等条約撤廃。

23- トルコ共和国 (首都 : ¹⁰)

• **ムスタファ=ケマル** : 大統領(23-) ¹¹ の称号。

24 ¹² 制廃止 : 政教分離。イスラム法の廃止。

⇒ 婦人解放、文字革命 (アラビア文字 ⇒ ¹³ 文字)

• ¹⁶ : ハーシム家。
メッカの首長。カリフを称す。

▶ 21-イラク王国

• **ファイサル** : フサインの子。

21 英保護下、王位に。

32 独立。英軍は駐留。

01- ネジド王国

• ¹⁷

: リヤドの豪族。

ワッハーブ派。

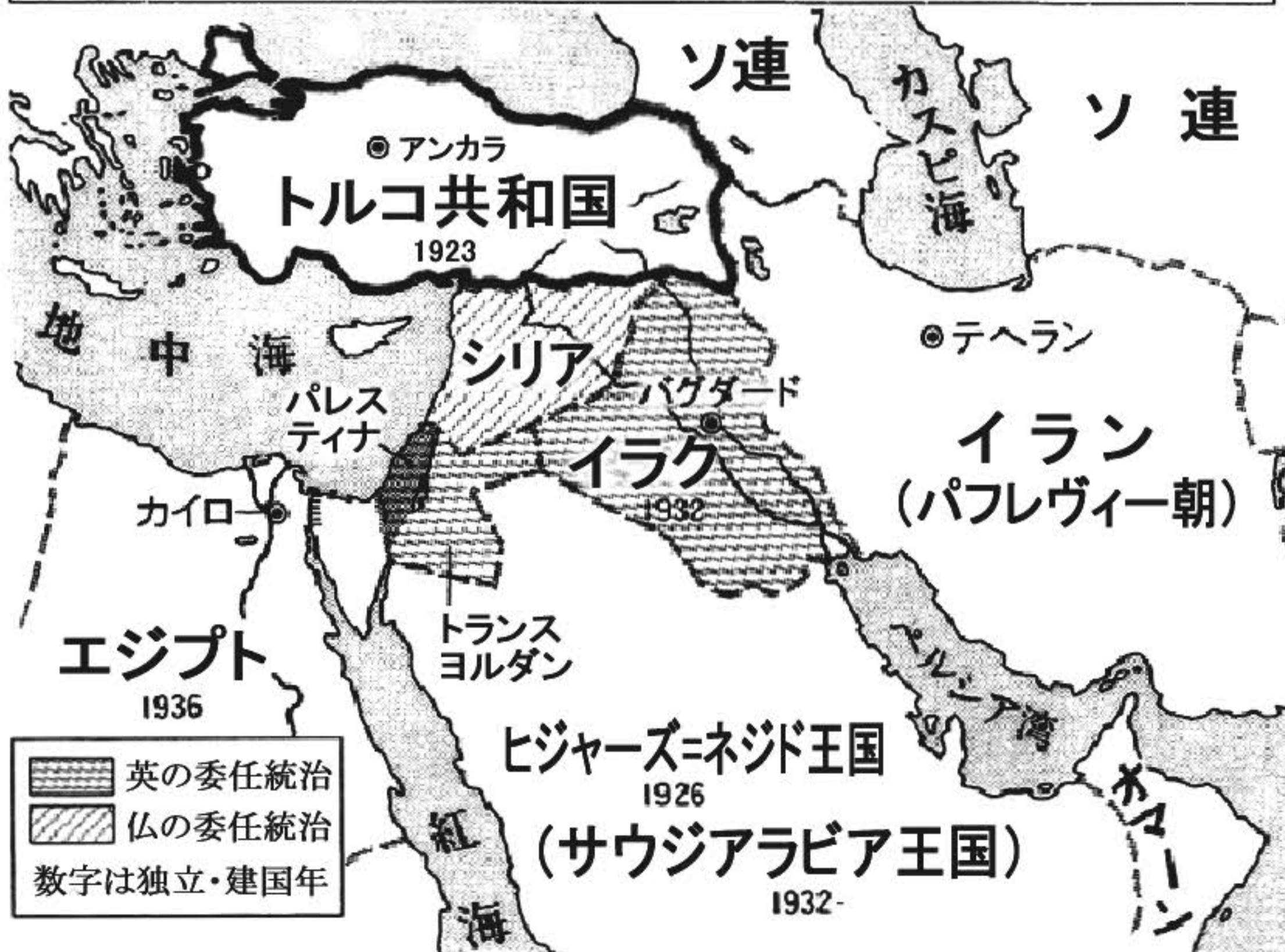
⇒ フサインと対立。

☆ ◀ 24 メッカ攻略。

26- ヒジャーズ=ネジド王国

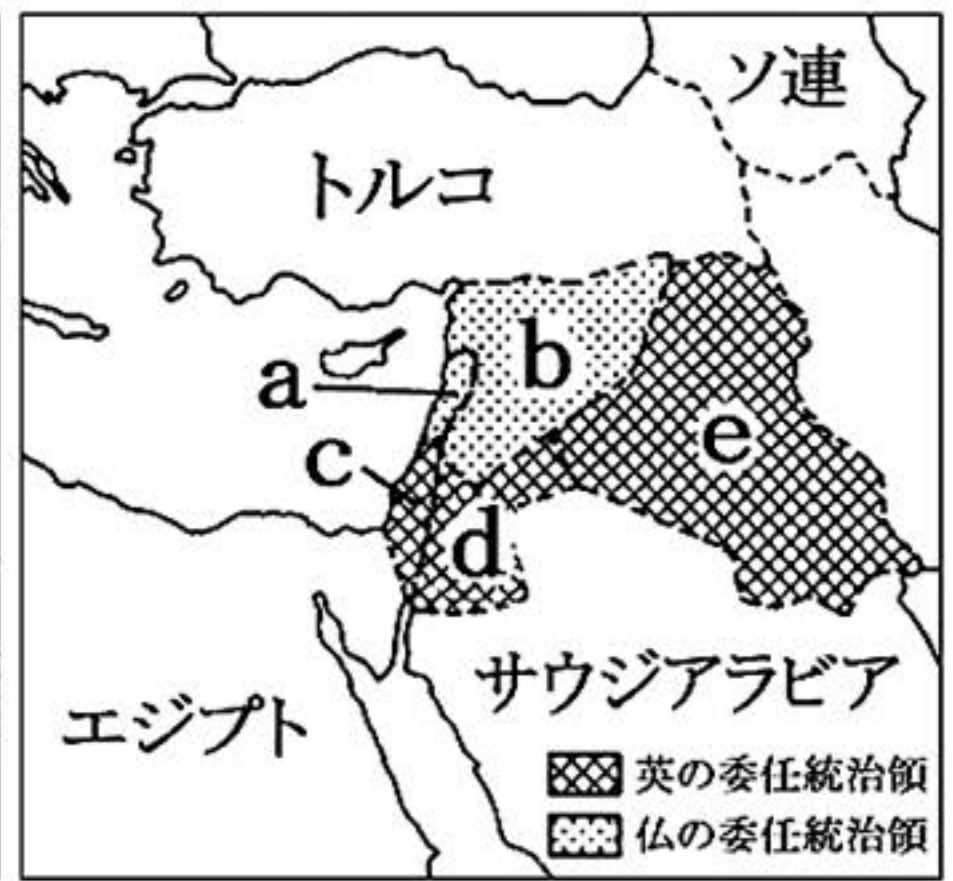
32¹⁸ 王国。

38 油田の発見。



▲ ファイサル王子とロレンス(右)

オスマン帝国の分割



(史料1) ¹ 協定(1915)
イギリスは…メッカの太守によって要求されている範囲内で、すべての地域におけるアラブ人の独立を認め、これを支援する用意がある。…アラブ側は、イギリスだけに助言と指導を仰ぐ。

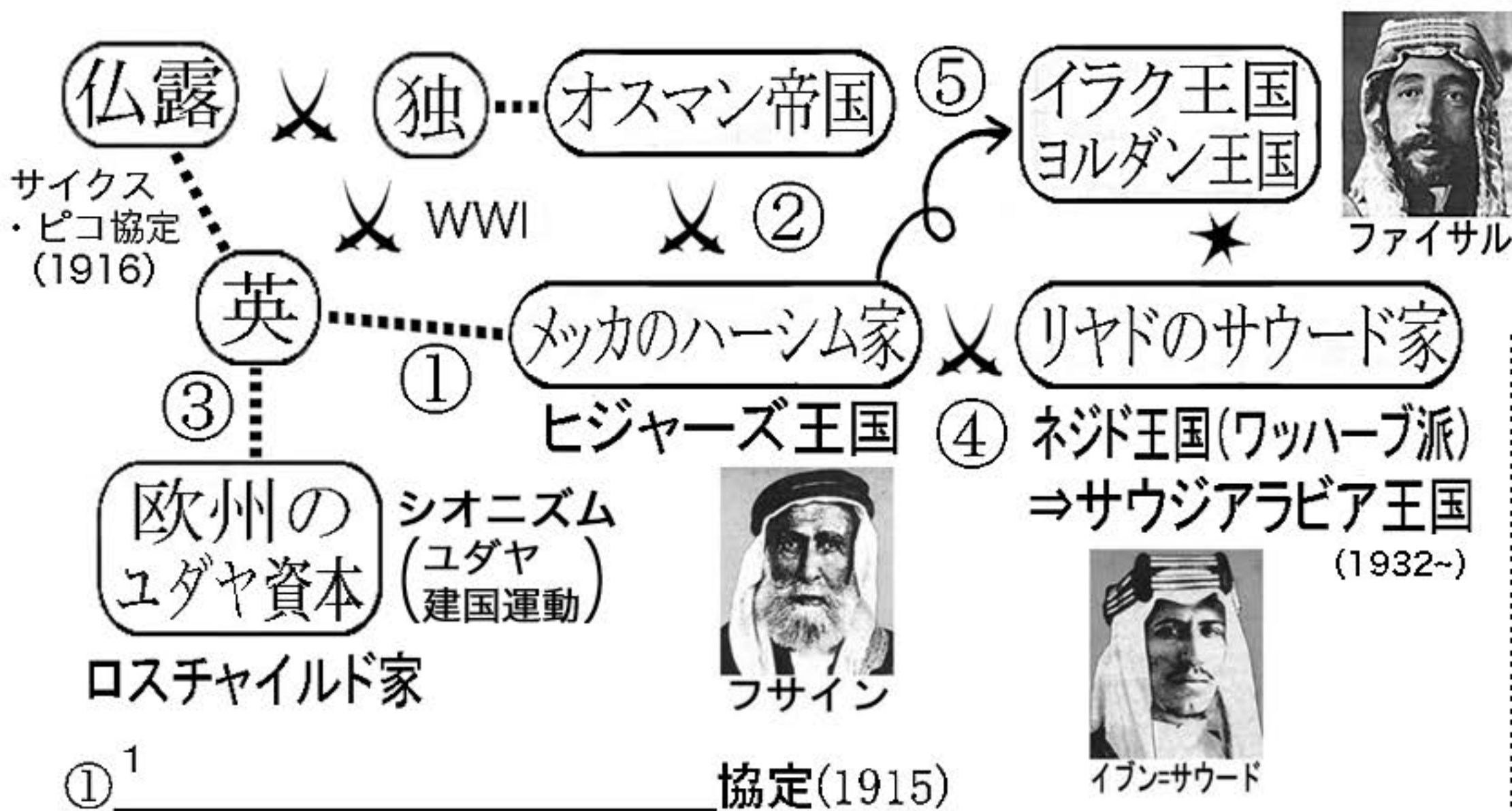
(史料2) ² 協定(1916)
1. 英・仏は、アラブ首長の宗主権のもとに…アラブ国家あるいはアラブ連合国家を承認し、保護する用意がある。A地域については仏が、B地域については英が、事業および投資の優先権を有す。
2. 青色地域については仏が、赤色地域については英が…直接的、間接的な統治および管理を行う。
3. 茶色地域については、国際管理が行われる。

a レバノン b シリア
c パレスティナ d トランスヨルダン
e イラク

(史料3) ³ 宣言(1917)
国王陛下の政府は、パレスチナにおけるユダヤ人の民族的故郷(National Home)の設立を好ましく考えており、この目的の達成を円滑にするために、最善の努力を行うつもりです。貴下(注)がこの宣言を、シオニスト連盟にお知らせいただければ、光栄に存じます。(注) 英国シオニスト連盟会長W.ロスチャイルド

(解答) 1. フサイン・マクマホン
2. サイクス・ピコ 3. バルフォア

※「フサイン」は「フセイン」でも可。アラビア語の母音はa・i・uしかなく、正確には「フサイン」となる。



第一次世界大戦後のアラブ独立運動について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。
マクマホン イブン=サウード

オスマン崩壊とアラブ独立

- 1 青年トルコ
- 2 ミドハト
- 3 パン=トルコ
- 4 セーヴル
- 5 ギリシア 6 イズミル
- 7 ムスタファア=ケマル (ケマル=パシヤ)
- 8 スルタン
- 9 ローザンヌ
- 10 アンカラ
- 11 アタチュルク
- 12 カリフ 13 ラテン
- 14 フサイン・マクマホン
- 15 ヒジャーズ 16 フサイン
- 17 イブン=サウード
- 18 サウジアラビア

① ¹ 協定(1915)

② アラブの反乱 (英人将校²が指揮)

③ ³ 宣言(1917)

④ サウード家がメッカ攻略。

⑤ フサインの2子を王に擁立。⇒英の委任統治領に。

(解答) 1 フサイン・マクマホン
2 ロレンス 3 バルフォア



▲ イブン=サウードとF.ローズヴェルト
サウード家は米系石油資本に油田開発権を与え、米国の同盟国となった。

イラン・アフガンの植民地化

☐ トルコ系

1722 アフガン人がイランに侵攻。サファヴィー朝滅亡。★ ← **アフガニスタン** (イラン系パシトゥーン人)

1736-アフシャール朝 / 1750- ザンド朝

• **ナーディール=シャー** : アフガン人を撃退。インド遠征。 → ★ 1739 デリー攻略。

1796-¹ _____ 朝 (首都: ² _____)

• **スンナ派王朝**とシーア派住民が対立。露が侵攻(26-)

1828 ³ _____ 条約: 露にアルメニア割譲。

37 英との通商条約: 治外法権承認 ⇨ 英製品の流入。

48- ⁴ _____ 教徒の乱: シーア派系の教団が反乱。

91 ⁵ _____ =ボイコット運動: 英企業の専売権に抗議。
: **パン=イスラーム主義者**⁶ _____ が指導。

1905- ⁷ _____ 革命: 国会を開設(06) ⇨ 国王との内戦 ⇨ 露軍が侵攻。国会停止。 ⇨ 07 ⁸ _____ 協商: イラン北部を露、東南部とアフガニスタンを英の勢力圏に。

14- 第一次世界大戦 ⇨ ロシア革命で、露が撤退。

1925- ⁹ _____ 朝 (首都: テヘラン)

• ¹⁰ _____ : 軍事クーデタで実権(21) ⇨ 国王。
⇨ 女性解放。不平等条約の破棄。国名をイランに。

1747- ドゥッラーニー朝
• **アフマド=ハーン** : アフガン最初の国王。

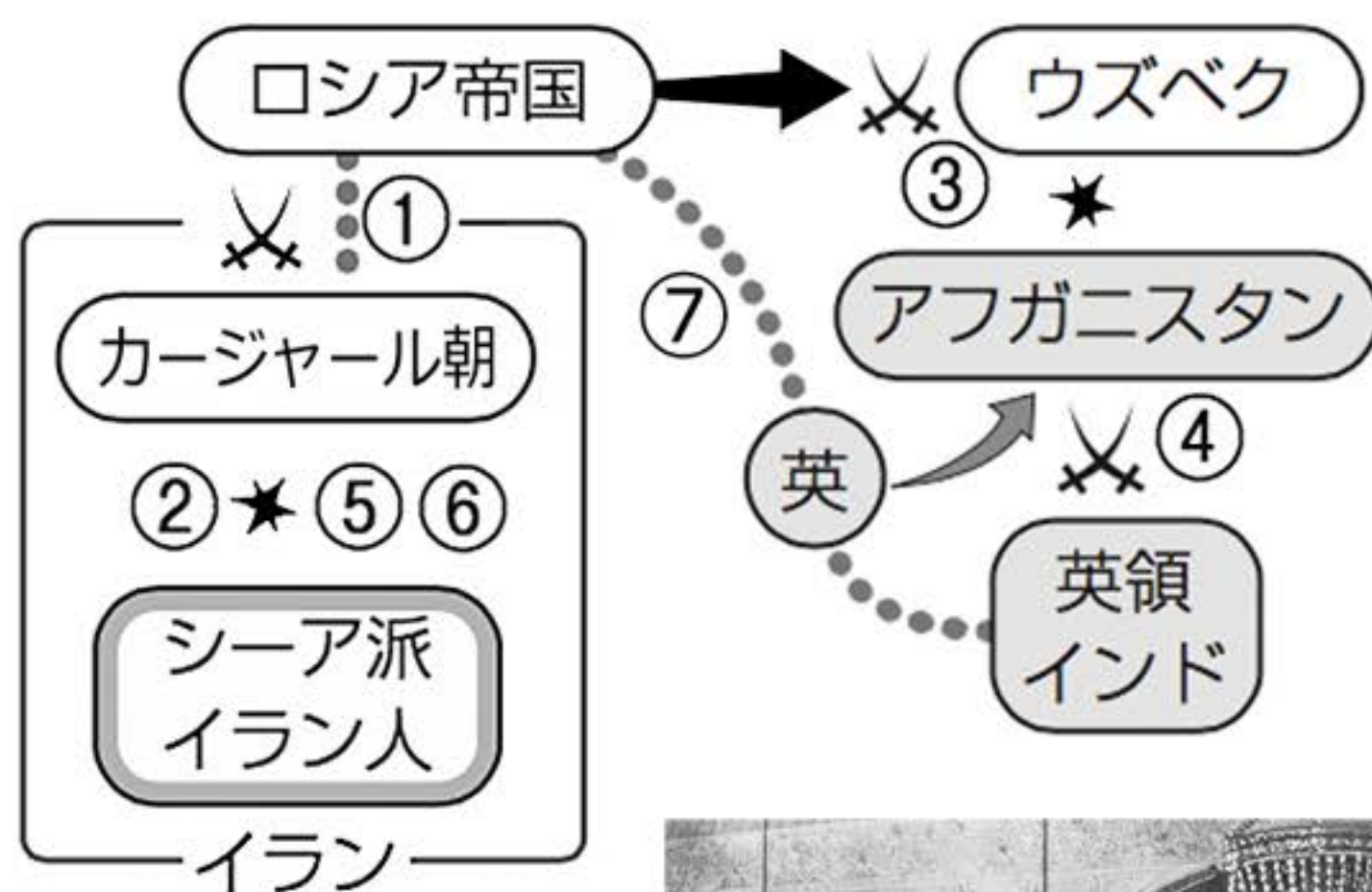
1826- バーラクザイ朝

1838- 第1次アフガン戦争 ← : 英軍を撃退 ⇨ 露に接近。

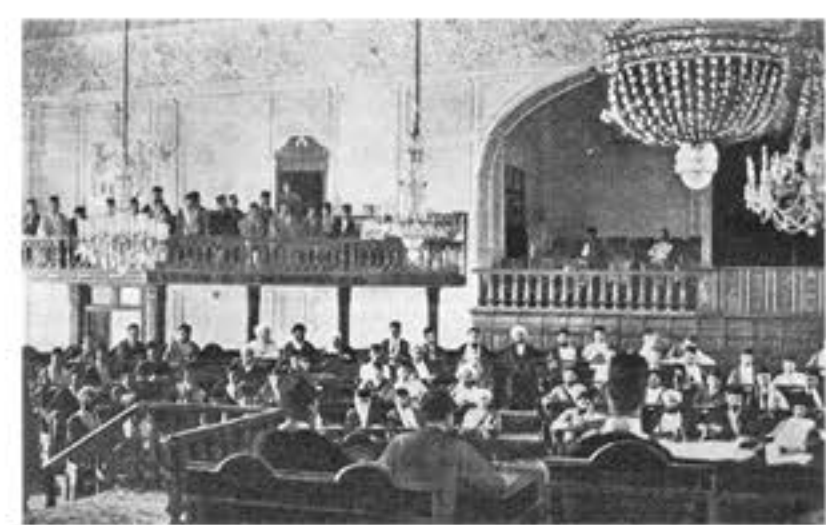
1878 第2次アフガン戦争 ← : 英に敗北、保護国に。

1919 第3次アフガン戦争 ← : 英領インドに侵攻。⇨ 英から外交権奪回、独立。(ラウルピンディー条約)

英領インド帝国



- ① _____ 条約(1828)
- ② _____ 教徒の乱(1848~50)
- ③ _____ 3ハン国併合、保護国化(~76)
- ④ _____ 戦争(1878)
- ⑤ _____ 運動(1891)
- ⑥ _____ 革命(1905~11)
- ⑦ 英露協商(1907)



▲ イラン最初の議会(1906)

- ① トルコマンチャーイ
- ② バーブ ③ ウズベク
- ④ 第2次アフガン
- ⑤ タバコ=ボイコット
- ⑥ イラン立憲

問 イランの近代化について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。
アフガーニー 英露協商 レザー=ハーン

12代 たいくイマム
バーブ (P9)
一般信徒



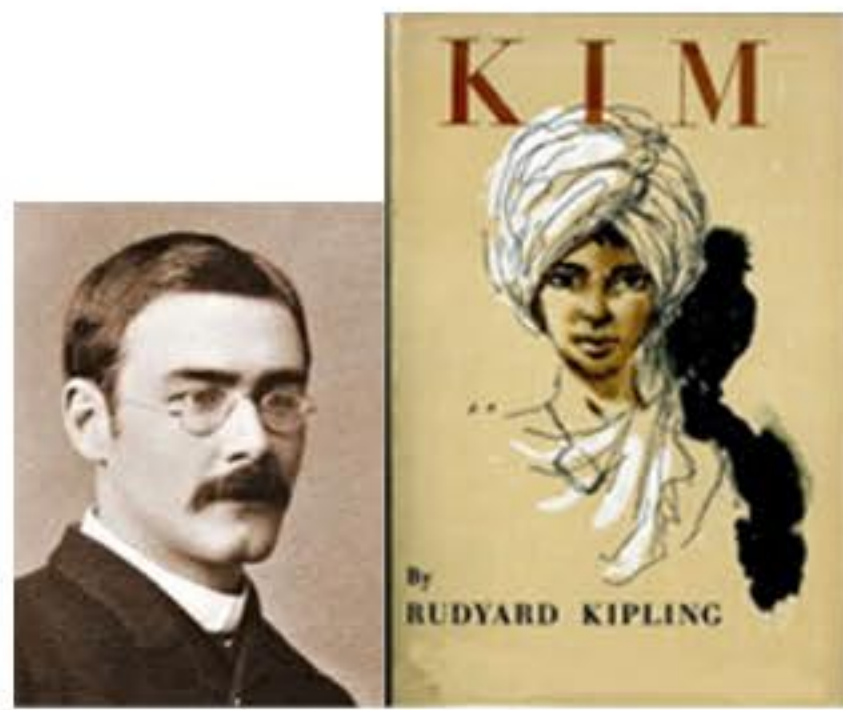
サイイド=アリー=ムハンマド アフガーニー レザー=ハーン

- イラン・アフガン植民地化
- | | |
|-------------|------------|
| 1 カージャール | 6 アフガーニー |
| 2 テヘラン | 7 立憲革命 |
| 3 トルコマンチャーイ | 8 英露 |
| 4 バーブ教徒 | 9 パフレヴィー |
| 5 タバコ | 10 レザー=ハーン |

19世紀の英露対立 the Great Game



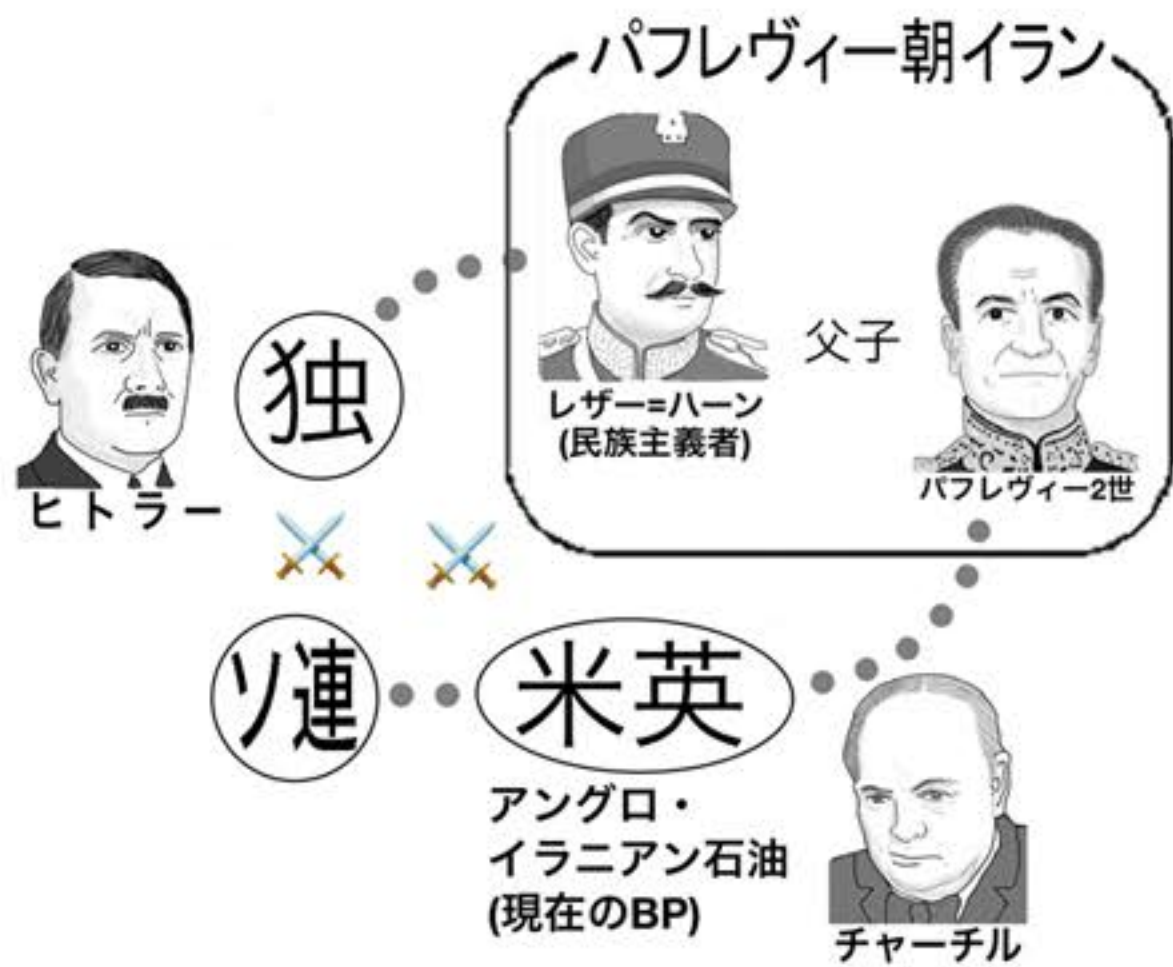
ケマルとレザ



キプリング『少年キム』
 …英領インド生まれの白人孤児が主人公。
 Great Gameの言葉は本書で普及した。



第2次アフガン戦争(1878-81)
 …英軍がアフガニスタンを占領、
 バーラクザイ朝を保護国化した。



テヘラン会談(1943.11月)
 …対ドイツの第二戦線問題を協議。
 当時イランは英軍占領下にあった。

インドの植民地化

1526-1858 ムガル帝国(首都:デリー⇒アグラ⇒デリー)

- 1 : 6代(1658-) 英東インド会社が進出。
- ⇒ 三大拠点² 3 4
- ⇒ 仏領⁵ 6 と抗争。

1707 アウラングゼーブ帝の死。ヒンドゥー諸侯の反乱、太守の独立。

1708- マラーター同盟

- デカン高原のヒンドゥー諸侯。ムガル帝国から独立。

1761 デリー攻略に失敗。

- ⇒ ムガル帝国も威信失墜。帝国は首都デリー周辺だけの地方政権に転落。

1744- 7 戦争 ← 1740⁸ 継承戦争。

: 英が仏の総督デュプレクスを破る。

1757 9 の戦い ← 1756- 10 戦争。(フレンチ・インディアン戦争)

: 11 率いる英軍が、
仏・12 太守を破る。

⇒ 英東インド会社は、
13 権を得る。

1623 アンボイナ事件
: モルッカ諸島で英蘭が抗争。
英はインドに撤退。

1767- 14 戦争: 英が南インドを征服。

1775- 15 戦争: 英がデカン高原を征服。

1814- ネパール征服: 英の保護国とする。

1815 16 併合: ウィーン会議で蘭から。

1845-49 17 戦争: パンジャブ地方を併合。

☆ 18 制: ベンガルの地主に徴税義務。
ザミンダール

☆ ライヤットワーリー制: 南インドでは農民に納税義務。
ライヤット

☆ 19 : 商業的大農園。茶・藍・アヘン栽培。
あい

☆ インド貿易の自由化: 産業資本家が要求。東インド会社の
20 廃止(13) ⇒ インドでの 21 停止(33)

⇒ 英製品の流入で手工業は壊滅。重税による農村の荒廃。

1857- インド大反乱: 傭兵(22)反乱に民衆が合流。

- ⇒ デリー占領 ⇒ ムガル皇帝バハードウル=シャー2世を擁立。
- ⇒ 英軍の反撃、皇帝逮捕、ビルマ流刑 ⇒ ムガル帝国滅亡。
- ⇒ 東インド会社を 23 (58)。英本国の直接統治へ。

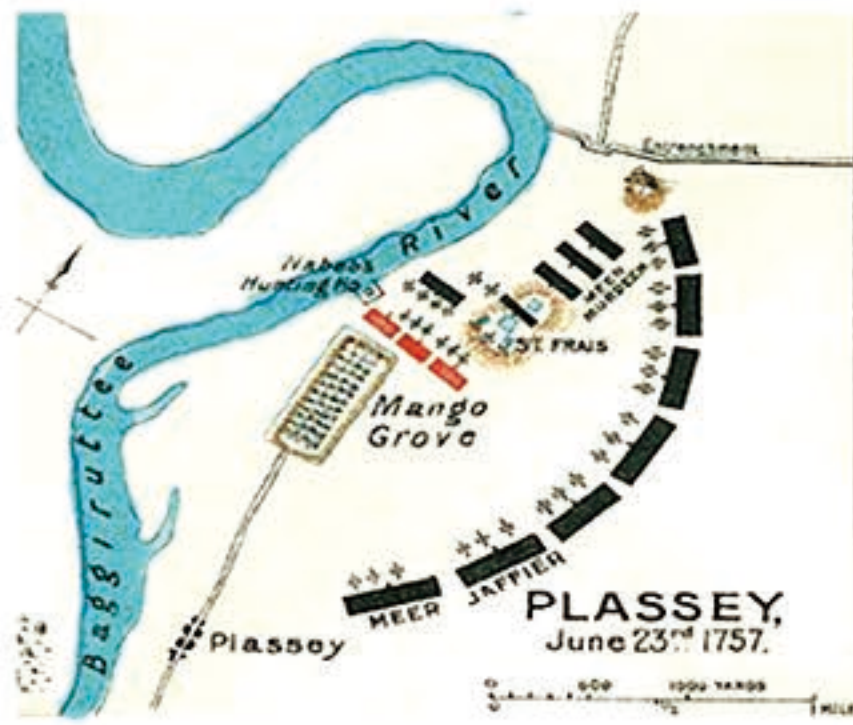
1877- 24 帝国 (実質的には1858-)

- 英首相 25 がヴィクトリア女王を皇帝に擁立。

(26 : 総督が 550の藩王^{マハラジャ}を通じて間接統治。)

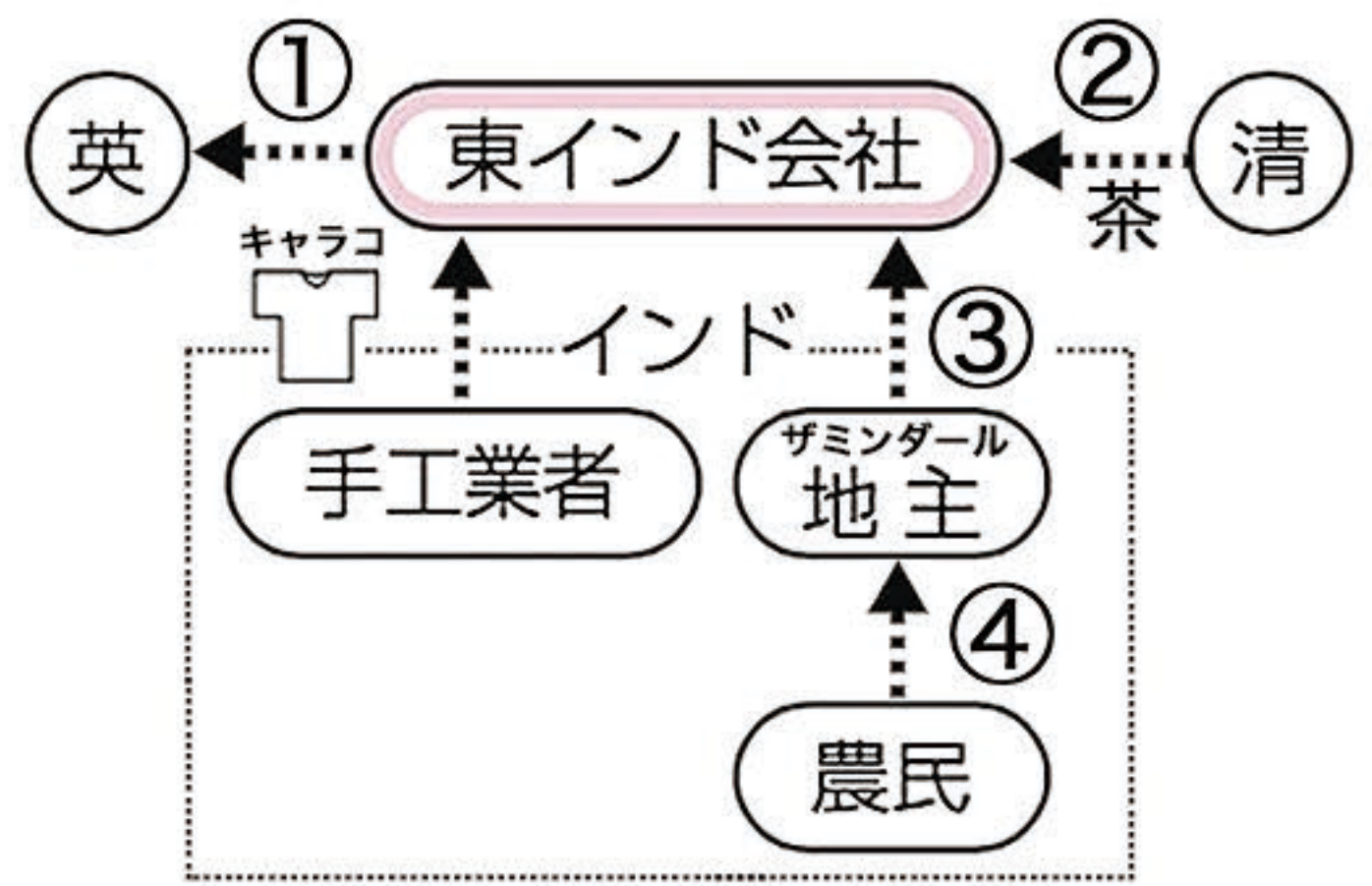


- インドの植民地化
- | | |
|------------|-----------------|
| 1 アウラングゼーブ | 14 マイソール |
| 2 ボンベイ | 15 マラータ |
| 3 マドラス | 16 セイロン (スリランカ) |
| 4 カルカッタ | 17 シク |
| 5 ポンディシェリ | 18 ザミンダラー |
| 6 シャンデルナゴル | 19 プランテーション |
| 7 カーナティック | 20 (インド)貿易独占権 |
| 8 オーストリア | 21 商業活動 |
| 9 プラッシー | 22 シパーヒー |
| 10 七年 | 23 解散 |
| 11 クライヴ | 24 インド |
| 12 ベンガル | 25 ディズレーリ |
| 13 徴税 | 26 藩王国 |

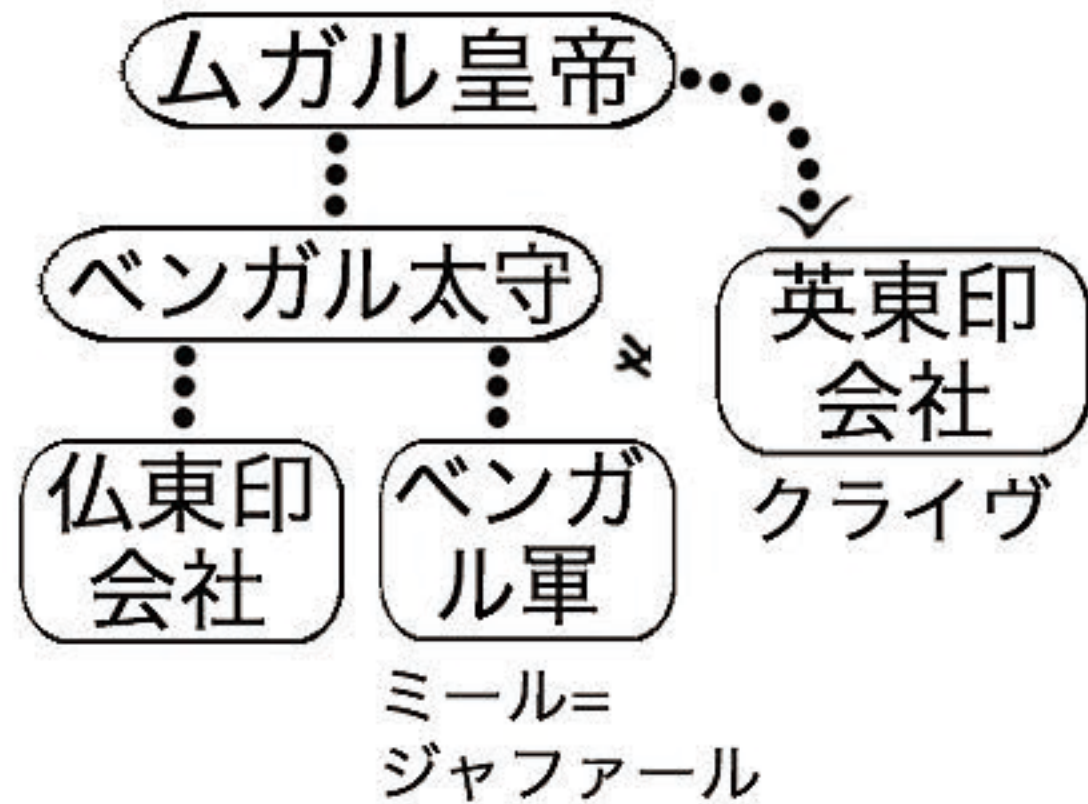


▲ クライヴと会見する
ミール=ジャファール

プラッシーの戦い(1757)後



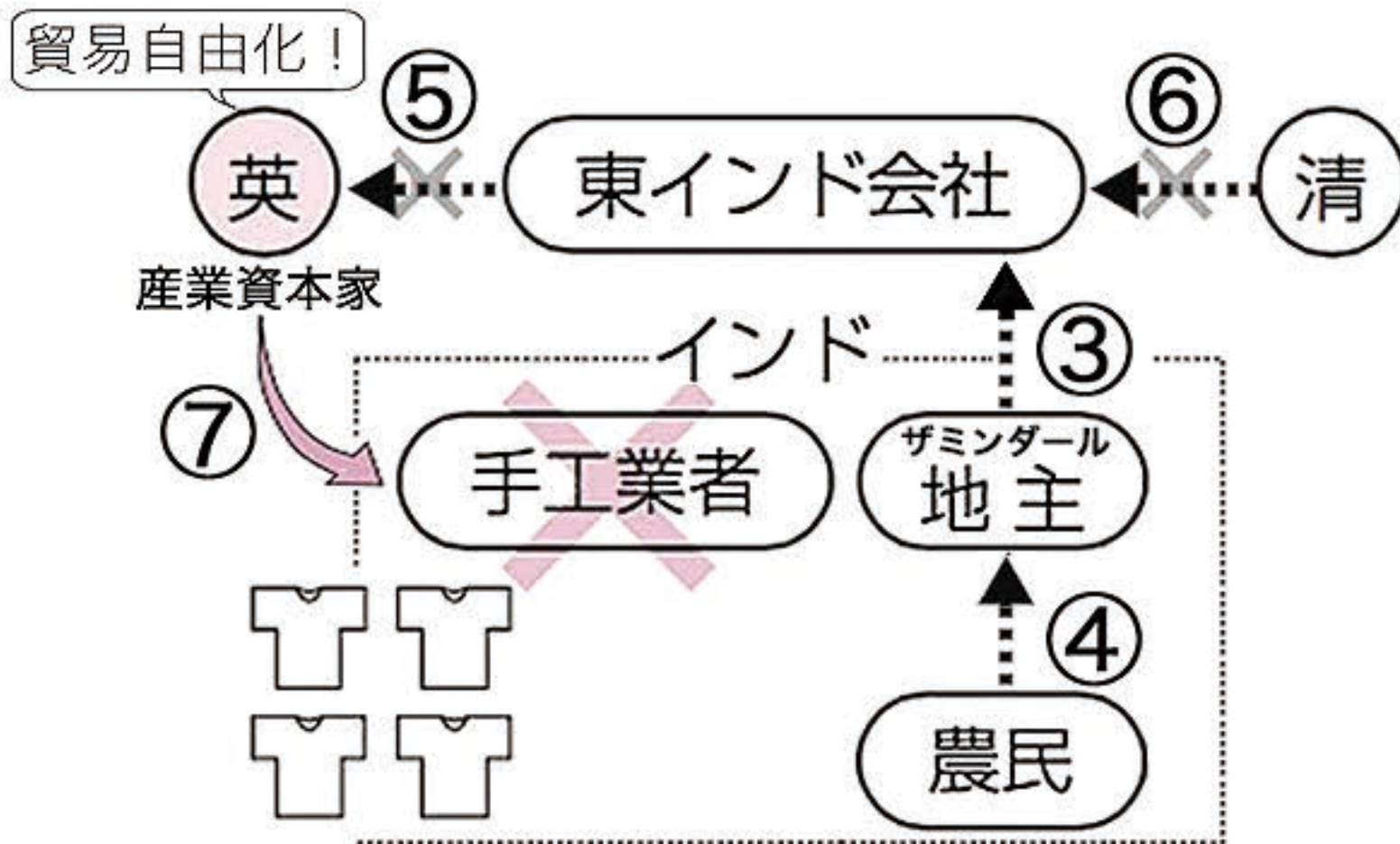
プラッシーの戦い(1757)



- ① _____ 独占権 } エリザベス1世
 ② _____ 独占権 } の特許状(1600)
 ③ _____ 権 : ムガル皇帝から獲得(1765)
 ④ _____ 制 : ベンガルの地主制
 ※ライヤットワーリー制 : 南インドでは農民から直接徴税

(解答) ① インド貿易 ② 中国貿易
 ③ 徴税 ④ ザミンダーリー

インド貿易の自由化(1813)後



インドの主な貿易相手国と貿易収支

	a	b	c	d
1828年度	18.9	21.0	4.8	4.5
1834年度	13.9	31.4	3.2	2.7
1837年度	15.1	40.6	7.2	3.0
1839年度	25.4	10.1	5.7	9.0
1850年度	-2.4	53.6	1.8	2.2
1860年度	-57.1	102.5	6.4	5.6

(単位 百万ルピー)

- ⑤ インド貿易の自由化(1813)
 ⑥ 中国貿易の自由化(1833)
 ⑦ 機械製綿布の流入

問 インド大反乱にいたるイギリスのインド政策の展開について、以下の語句を用いて、120字以内で説明しなさい。
 徴税権 貿易独占権

イギリス東インド会社の業務

	いつから	いつまで
インド貿易独占権	1 _____ の	1813 英議会在が廃止(③ _____ の要求)
中国(茶)貿易独占権	特許状(1600)による。	1834 英議会在が廃止。
インドでの徴税権 (インド統治権)	2 _____ の戦い(1757)後、 ムガル皇帝から(1765)※	4 _____ (1857-)の責任を問われ、 1858 東インド会社 5 _____。

1 エリザベス1世 2 プラッシー 3 産業資本家 4 インド大反乱(シパーヒーの反乱) 5 解散

※ベンガル太守を継いだミール=カーシム(ジャッファールの甥)はイギリスから離反し、ムガル皇帝を擁して挙兵したが、ブクサールの戦い(1765)で敗北。ムガル皇帝は、ベンガル・ビハール・オリッサの徴税権をイギリス東インド会社に与えた。

インドの独立運動

1877-1947 英領インド帝国(首都:カルカッタ⇒デリー)

☆インド民族主義の覚醒…民族資本の成長、英語の公用語化。
ナショナリズム

⇒寡婦殉死の廃止運動サティ(ラム=モーハン=ローイ)、富の流出論(ナオロジー)。
かふじゅんし

1885 ボンベイに¹ _____ 設立:総督の諮問機関。

⇒インド最大の政治結社² _____ の成立。

⇒³ _____ ら急進派の台頭で、反英姿勢を強める◀

1905 総督⁴ _____ の⁵ _____ 令。

:反英運動の根拠地を2州に分け、宗教対立をあおる。

1906 国民会議派⁶ _____ 大会:4綱領を採択。

①英貨排斥(ボイコット) ②国産品愛用 (⁷ _____)

③自治 (⁸ _____) ④⁹ _____

1906 ¹⁰ _____ 設立:親英ムスリム結社。

⇒大戦中、オスマン帝国の呼びかけに応じ、反英に転ず。◀

1916 ラクナウ協定:会議派と連盟が、自治権要求で協調。

⇒英(インド担当相モンタギュー)は戦後のインド自治を約束(17)。

1919 ¹¹ _____ 法 総督独裁下の形式的自治。

1919 ¹² _____ 法:反英運動弾圧、裁判なしで投獄。

⇒¹³ _____ 事件:英軍が市民集会に発砲。

⇒1500人が死傷。各地で反英暴動。ガンディー帰国。

1919- 非暴力・不服従運動 (¹⁴ _____)

: ¹⁵ _____ が指導。大衆動員でストライキ、英貨排斥。

⇒国民会議派のなかで、完全独立を主張する左派が台頭。

1929 国民会議派¹⁶ _____ 大会: ¹⁷ _____ が議長。

⇒英からの完全独立 (¹⁸ _____) を決議。

1930 ガンディーの¹⁹ _____ :専売への抗議。

⇒第2回非暴力・不服従運動:英貨排斥、徴税拒否。

1930-32 ²⁰ _____ 会議:英(マクドナルド内閣)がロンドンで開催。

⇒ガンディーとの妥協をはかるが決裂⇒再び運動を弾圧。

35 ²¹ _____ 法:州政府に責任内閣制を導入。

⇒ベンガル・パンジャブなどでムスリム連盟の州内閣が成立。

40 ムスリム連盟がパキスタンの分離独立を要求。

1875 スエズ運河買収。

1899- 南ア戦争。

1904- 日露戦争。



ティラク



ネルー

1906 英露協商。

1914- 第一次世界大戦。



インドの独立運動

- 1 インド国民会議
- 2 国民会議派
- 3 ティラク
- 4 カーゾン
- 5 ベンガル分割
- 6 カルカッタ
- 7 スワデーシ
- 8 スワラージ
- 9 民族教育
- 10 全インド=ムスリム連盟
- 11 インド統治

- 12 ローラット
- 13 アムリットサル
- 14 サティヤーグラハ
- 15 ガンディー(ガンジー)
- 16 ラホール
- 17 ネルー
- 18 プールナ=スワラージ
- 19 塩の行進
- 20 英印円卓会議
- 21 新インド統治

日露戦争後のインド

1. _____ 令
(1905)で対立を煽れ!

英国

インド
総督



1906-

全インド=ムスリム連盟

少数派の権利を守れ!

国民会議派



1906 2. _____ 大会

3. _____ (自治)
4. _____ (国産品)
英貨排斥、民族教育



▲ サティ (寡婦殉死) とラーム=モーハン=ローイ



(解答)

- 1.ベンガル分割 3.スワラージ
2.カルカッタ 4.スワデーシ

第一次大戦後のインド

5. _____ 法:形だけの自治。
6. _____ 法:反英運動を弾圧。

(1919)

7. _____ 事件

(1919)

国民会議派



1919 8. _____ 大会

完全独立!

9. _____

非暴力・不服従

10. _____

⇒塩の行進 (1930)



日露戦争後のインド独立運動の展開について、以下の語句を用いて、120字以内で説明しなさい。
スワラージ ティラク ベンガル

(解答)

- 5.インド統治
6.ローラット
7.アムリットサル
8.ラホール
9.プールナ=スワラージ
10.サティヤグラハ



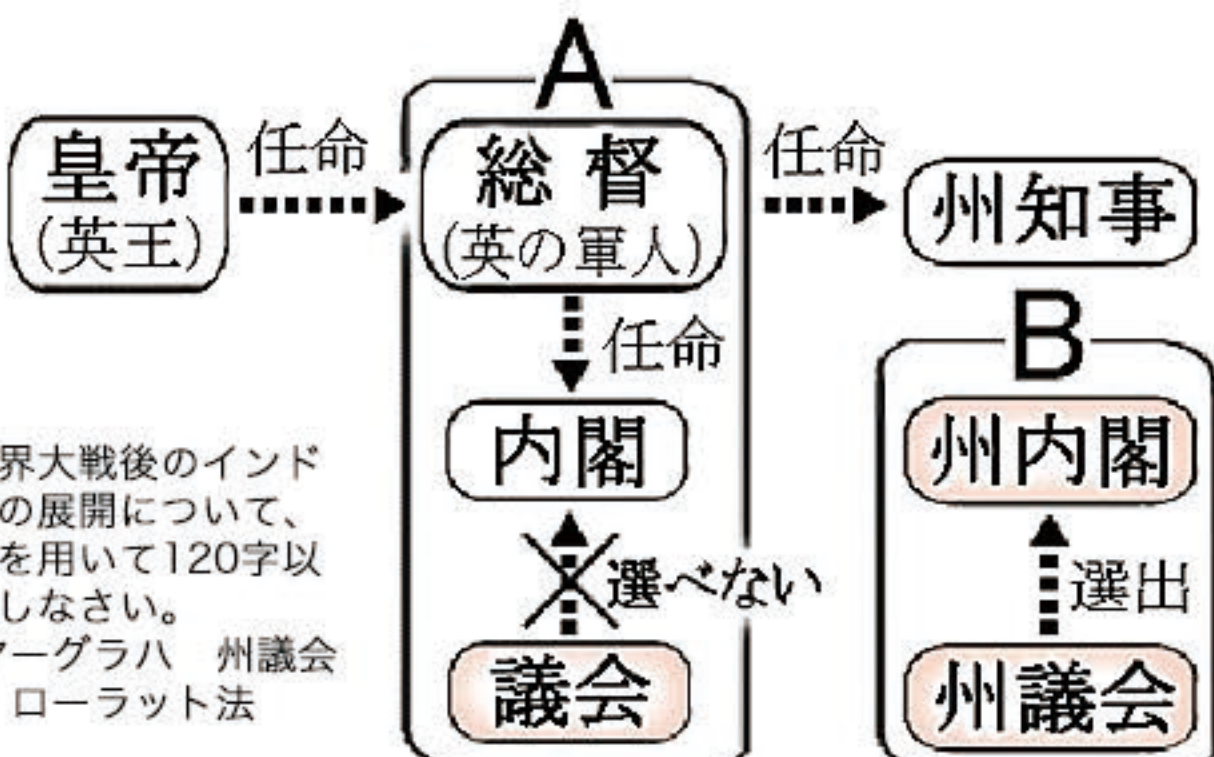
▲ 塩の行進(1930)



▲ インド皇帝ヴィクトリア

インド帝国

A インド統治法(1919)
B 新インド統治法(1935)



第一次世界大戦後のインド独立運動の展開について、以下の国を用いて120字以内で説明しなさい。
サティヤグラハ 州議会 ネルー ローラット法

